

当局・「本部」反動暴力集団の敵対はねのけ

# 反処分第二波闘争貫徹



全国的動労組合員のみなさん。  
 動労千葉は、一月十日千葉局において不当処分撤回、局報号外（一月二十九日付）弾劾、内房線を中心とする運転保安確立に向けた交渉を行ない、労働運動への選別的介入に動労千葉への選別的弾圧政策、合理化先行—運転保安無視の不当な当局の姿勢を厳しく追及しました。その後、動力車会館で第2回支部代表者会議を開催し、激動する八〇年代の冒頭にあたり、動労千葉をめぐる情勢に対する認識の統一と、反処分第二波並びに第二次反合・運転保安確立を中心とする取組みを決定し、一月十二日の団結旗開きの圧倒的成功を契機にして一月十六日からの闘いに突入し意気軒昂として闘い抜いています。

## 八〇年代こそ労働組合の真価が問われる時代

八〇年代を迎えてわれわれをとりまく情勢は、極めて厳しいものがあります。であるがゆえに労働組合としての真価が問われる時代であります。イラン—中東情勢、ソ連のアフガン軍事介入、世界的経済危機の一挙の進行を象徴した金の高騰、石油危機、食糧危機等は米ソを中心とする戦後世界の支配構造が崩壊局面に突入したことを示すものであり、戦争への衝動が常に世界情勢をつき動かす容易ならざる時代の幕あけを示しています。

国内においては体制的危機を侵略と反動の政策によってのり切ろうとする大平・自民党政府、反戦・反安保・護憲の原則をなし崩し的に放棄する「革新」の変質、社公民路線、その受け皿としての右翼的労線統一策動など労働運動総体の産報化策動が強められています。

## 当局・「本部」反動集団の結託した弾圧体制を粉碎せよ！

こうした情勢下で出された動労千葉に対する昨年末の不当処分攻撃、「暴力行為の絶滅について」なる局報号外は、権力・国鉄当局・「本部」反動暴力集団の一体化した動労千葉への自己目的においた新たな攻撃であります。この攻撃の狙いは「八一年三月ジェット燃料暫定輸送期限切れ」を一年後にひかえ、三里塚空港の命脈を握る動労千葉の存在に心底恐怖し、選別的組織破壊攻撃を当局と「本部」革マル分子が合意の上で開始したことを示しています。（動労「本部」の「闘争一号」を想起せよ！）同時にそれは、動労千葉の闘いが、森山前運輸相の「処分凍結・ストなし体制」をふきとばし、政府・国鉄当局にとって至上命令としての「三五万人体制」攻撃にたいして、全国の職場に渦まいている国鉄労働者の怒りと反撃力を引き出す現実的な戦略的突破口となったことに対する国鉄当局の危機意識のあらわれであり

80.1.20  
 全国版  
 No. 44

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
 鉄電二三五八〇九（公衆電話）七二〇七

ます。

それ故に、「冬の時代の到来」などと規定して権力・当局に屈服し、身をゆだねるのではなく、いまこそ労働運動の原則にふまえた正しい指導路線と職場生産点で組合員の創造的エネルギーを結集した大衆的闘いの積み上げ、強固な団結を日常不断にみがきあげ、密集せる反動にひるまず対決し闘いぬくことが唯一勝利をきりひらく道です。

## 「三五万人体制」粉碎・八〇春闘勝利・動労大改革へ！

そのような展望をこめて、動労千葉は、反処分闘争と結合し、「三五万人体制」粉碎にむけた先制的攻撃的闘いとして今回の第二次反合・運転保安闘争に全組合員の意志統一のもと、敢然と撃つて出たのです。十二月二十八日—三〇日の反処分第一波闘争、ひきつづく長期強靱な非協力闘争、一月十六日—十八日の反処分第二波闘争と、権力・当局・「本部」反動暴力集団の介入のスキを与えず闘い抜いています。

われわれは、この闘いの勝利的展開の中にこそ、「三五万人体制」攻撃・右翼的労線統一、ストなし春闘の策動をかならずや粉碎できる展望がきり拓けると確信しています。

全国の動労組合員のみなさん。

わが動労千葉の闘いに比して「本部」反動集団の現状はどうでしょうか。あの反動的な「貨物安定宣言」そして「事故防止には乗務員の業務上の努力が必要」（「動力車新聞」一三〇九号）などと運転事故の乗務員への責任転嫁を労資ともども確認するという情落ぶり。東京地本大会での「乗務員運用合理化容認路線」等々、国鉄当局への屈服をますます深めています。いまこそかかる否定すべき現実を突破し、動労の戦闘的伝統を復権させるべきときがきたのです。

動労大改革、「三五万人体制」粉碎にむけ共に決起しよう！